

2025 年度 事業報告

〔 自 2025 年 4 月 1 日 〕
〔 至 2026 年 3 月 31 日 〕

当財団は、「産業、経済、文化の発展に貢献する科学技術、芸術等を中心とする分野で著しい貢献をした者の顕彰、研究又は普及啓発に対する助成等を通じてその促進を図るとともに国際相互理解の増進に努め、もって社会の啓発に貢献し、人類の平和と繁栄に寄与する」ことを目的として、1984 年(昭和 59 年)4 月 12 日に設立され、1985 年(昭和 60 年)に第 1 回京都賞授賞式、第 1 回研究助成金贈呈式を開催した。

2025 年度の主要事業の活動概要を、次のとおり報告する。

I. 顕彰事業

1. 第 39 回(2024)京都賞に関する事項

(1) 英国オックスフォード大学における「Kyoto Prize at Oxford」の開催支援

2025 年 5 月 6 日及び 7 日(現地時間)、第 39 回(2024)京都賞受賞者を迎えて開催された英国オックスフォード大学主催の「Kyoto Prize at Oxford」を支援した。

2. 第 40 回(2025)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関による審査

2025 年 4 月 12 日、2024 年度に開催された各部門専門委員会及び審査委員会に引き続き京都賞委員会を開催し、受賞候補者の審査を行った。

(2) 受賞者の決定

2025 年 5 月 29 日、定時理事会において第 40 回(2025)京都賞受賞者を次のとおり決定した。

① 先端技術部門受賞者

甘利 俊一 (Shun-ichi Amari)

職 業：数理工学者

帝京大学 特任教授

理化学研究所 荣誉研究員

業 績：

「人工知能の理論的基盤を拓く先駆的貢献と情報幾何学の確立」

人工ニューラルネットワークにおける先駆的な研究を行うとともに、微分幾何

学的手法を用いて統計モデルを研究する情報幾何学の分野を確立して多くの重要な理論を提唱した。さまざまな分野に影響を与える理論と応用の両面にわたる貢献は、今なお極めて大きな意義を持ち続けている。

② 基礎科学部門受賞者

アジム・スラーニ (Azim Surani)

職 業：発生生物学者

ケンブリッジ大学 ガードン研究所 研究ディレクター

業 績：

「哺乳類におけるゲノムインプリンティングの発見および分子機構の解明」

哺乳類の正常な発生には父親および母親由来両性のゲノムが必須なことを示した上で、それぞれに特異的な修飾と相補的な機能を付与するゲノムインプリンティングを発見した。加えて、作動機序の解明も先導し続け、生命科学の広範な分野にわたる基盤的知見の形成に貢献した。

③ 思想・芸術部門受賞者

キャロル・ギリガン (Carol Gilligan)

職 業：心理学者

ニューヨーク大学 ユニバーシティ・プロフェッサー

業 績：

「女性の思考と行動の分析を通じて従来の心理学理論の歪みと限界を指摘し、『ケアの倫理』の新たな地平を開拓」

人びとの関係性を重視する「ケア」の観点を女性の道徳観として劣位に置く従来の心理学理論が、人格形成のモデルを狭隘にしている点を批判し、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との編み合わせを展望することで、ケアに関わるグローバルな課題に取り組む新たな学問的基礎を築いた。

(3) 受賞者の発表

2025年6月20日、第40回(2025)京都賞受賞者を記者会見において発表した。

(4) 京都賞審査機関委員の公表

受賞者の発表に併せて、第40回(2025)京都賞審査機関委員を次のとおり公表した。

[京都賞委員会]

森 重文 (委員長) 京都大学 高等研究院 院長・特別教授

今井 浩 明治学院大学 情報数理学部 学部長

巖佐 庸 九州大学 名誉教授

長木 誠司 東京大学 名誉教授

西田 栄介 理化学研究所 領域総括

鷺田 清一 大阪大学 名誉教授

[審査委員会]

① 先端技術部門

今井 浩 (委員長) 明治学院大学 情報数理学部 学部長
相澤 彰子 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 教授
上田 修功 理化学研究所 革新知能統合研究センター 副センター長
笠原 博徳 早稲田大学 理工学術院 教授
土井 美和子 情報通信研究機構 監事
福田 剛志 日本アイ・ビー・エム (株) 執行役員・東京基礎研究所長
美濃 導彦 理化学研究所 情報統合本部
ガーディアンロボットプロジェクト
プロジェクトディレクター
渡辺 治 東京科学大学 名誉教授

② 基礎科学部門

西田 栄介 (委員長) 理化学研究所 領域総括
岩井 一宏 京都大学 プロボスト・理事・副学長
貝淵 弘三 藤田医科大学 医科学研究センター センター長
影山 龍一郎 理化学研究所 生命機能科学研究センター センター長
近藤 滋 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 所長
月田 早智子 帝京大学 先端総合研究機構 特任教授
水島 昇 東京大学 大学院医学系研究科 教授
森 郁恵 名古屋大学 名誉教授

③ 思想・芸術部門

鷺田 清一 (委員長) 大阪大学 名誉教授
喜多 千草 京都大学 大学院文学研究科 教授
児玉 聡 京都大学 大学院文学研究科 教授
小林 傳司 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター センター長
酒井 啓子 千葉大学 国際高等研究基幹 特任教授
鶴岡 賀雄 東京大学 名誉教授
堂目 卓生 大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ 特任教授
中西 寛 京都大学 公共政策大学院 教授

[専門委員会]

① 先端技術部門

美濃 導彦 (委員長) 理化学研究所 情報統合本部
ガーディアンロボットプロジェクト
プロジェクトディレクター
鹿島 久嗣 京都大学 大学院情報学研究科 教授
木村 朝子 立命館大学 情報理工学部 教授

黒橋 禎夫 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 所長
京都大学 特定教授
下條 真司 青森大学 ソフトウェア情報学部 教授
田浦 健次郎 東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
松井 充 三菱電機 (株) 研究開発本部 シニアフェロー
湊 真一 京都大学 大学院情報学研究科 副研究科長・教授

② 基礎科学部門

近藤 滋 (委員長) 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 所長
岩田 想 京都大学 大学院医学研究科 教授
胡桃坂 仁志 東京大学 定量生命科学研究科 教授
斎藤 通紀 京都大学 高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点
拠点長・教授
東山 哲也 東京大学 大学院理学系研究科 教授
松岡 雅雄 京都大学 名誉教授
山本 雅之 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 機構長・教授
吉村 昭彦 東京理科大学 生命科学研究科 教授

③ 思想・芸術部門

小林 傳司 (委員長) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター
センター長
阿古 智子 東京大学 大学院総合文化研究科 教授
重田 園江 明治大学 政治経済学部 教授
河野 哲也 立教大学 文学部 教授
中島 隆博 東京大学 東洋文化研究所 所長
野家 啓一 東北大学 名誉教授
橋本 努 北海道大学 大学院経済学研究院 教授
松村 圭一郎 岡山大学 社会文化科学学域 准教授

(肩書は 2025 年 6 月 1 日現在)

3. 第 40 回 (2025) 京都賞授賞式及び関連行事の開催

(1) 第 40 回 (2025) 京都賞授賞式

日 時 : 2025 年 11 月 10 日 (月) 15:00
場 所 : 国立京都国際会館 メインホール
貴 賓 : 高円宮妃久子殿下 (稲盛財団名誉総裁)
受 賞 者 : 甘利 俊一 博士 (先端技術部門)
アジム・スラーニ 博士 (基礎科学部門)
キャロル・ギリガン 博士 (思想・芸術部門)
出席者数 : 700 名

祝 辞：高市 早苗 内閣総理大臣
内 容：高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、国内外から多くの招待者を迎えて授賞式を開催した。式典では、稲盛財団会長 中西 重忠から受賞者へ、京都賞メダルとディプロマ、賞金1億円が贈られ、受賞者は受賞にあたってのスピーチを行った。また、内閣総理大臣から祝辞が寄せられ、受賞者の栄誉を讃えた。

(2) 晩餐会

日 時：2025年11月10日(月) 18:15
場 所：ザ・プリンス 京都宝ヶ池
貴 賓：高円宮妃久子殿下(稲盛財団名誉総裁)
出席者数：520名
内 容：授賞式に続いて、高円宮妃久子殿下ご臨席のもと晩餐会を開催し、多くのご来賓とともに受賞者を祝福した。

(3) 記念講演会

日 時：2025年11月11日(火) 13:00
場 所：国立京都国際会館 メインホール
出席者数：1,300名
演 題：「幸運なるわが人生」 甘利 俊一 博士
「アフリカで生まれ、生命科学の道へ」 アジム・スラーニ 博士
「飛び込んで聴く」 キャロル・ギリガン 博士
内 容：受賞者が上記のテーマで講演を行い、自身の研究や創作を通じて培われた人生観や世界観を披露した。
後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、大学コンソーシアム京都、京都商工会議所、京都新聞、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、産経新聞社、時事通信社、共同通信社、NHK、KBS 京都、エフエム京都

(4) 米国サンディエゴにおける「Kyoto Prize Symposium」の開催支援及び寄附

2026年3月10日、11日及び12日の3日間(現地時間)、第40回(2025)京都賞受賞者を迎えて、米国サンディエゴにて開催された「Kyoto Prize Symposium」の開催を支援した。なお、2025年度の寄附として、2025年4月、主催の京都賞シンポジウム組織及び共催大学(カリフォルニア大学サンディエゴ校、ポイント・ロマ・ナザレン大学)に対して、35万ドルの寄附を実施した。(2023年3月再調印の覚書に基づき、2023年度から2026年度までの4年間で総額140万ドルを寄附)

4. 第 41 回(2026)京都賞に関する事項

(1) 推薦依頼書の発送

2025 年 5 月、推薦依頼方針に基づいて選ばれた国内、海外の有識者に対して、郵送もしくはメールにて受賞候補者推薦の依頼を行った。

(2) 推薦の受付

2025 年 7 月 23 日をもって推薦書の受付を締め切った。

(3) 京都賞合同会議の開催

2025 年 9 月 6 日、第 41 回(2026)京都賞合同会議を開催し、京都賞審査機関の委員に審査基本事項等を共有した。

(4) 京都賞審査機関による審査

授賞対象分野毎に専門委員会を各 4 回計 12 回、審査委員会を各 2 回計 6 回開催した。

5. 第 42 回(2027)京都賞に関する事項

(1) 授賞対象分野の決定

2025 年 10 月 3 日、決議の省略の方法による臨時理事会において第 42 回(2027)京都賞授賞対象分野を次のとおり決定した。

先端技術部門 : バイオテクノロジー及びメディカルテクノロジー

Biotechnology and Medical Technology

基礎科学部門 : 数理科学 (純粋数学を含む)

Mathematical Sciences (including Pure Mathematics)

思想・芸術部門 : 美術 (絵画・彫刻・工芸・建築・写真・デザイン等)

Arts (Painting, Sculpture, Craft, Architecture, Photography, Design, etc.)

(2) 京都賞審査機関委員の決定

2025 年 10 月 3 日、決議の省略の方法による臨時理事会において第 42 回(2027)京都賞審査機関委員を選任した。

Ⅱ. 研究助成事業

1. 稲盛研究助成

(1) 2025 年度稲盛研究助成に関する事項

① 2025 年度稲盛研究助成金贈呈式の開催

日 時：2025 年 4 月 19 日（土）13:50

場 所：ザ・プリンス 京都宝ヶ池

出席者数：120 名

内 容：2025 年 3 月 7 日の定時理事会において承認された 50 件に対し、総額 5,000 万円の贈呈を行った。また贈呈式に引き続いて、2025 年度盛和スカラーズソサエティ交流会が開催され、盛和スカラーズソサエティ会員によるポスター発表が行われた。

※ 附属明細書1「2025年度研究助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目」を参照

(2) 2026 年度稲盛研究助成に関する事項

① 応募受付の開始

2025 年 5 月 23 日、稲盛研究助成を二つのコース「はぐくむ」「たかめる」に拡充後、初の応募受付を開始した。

② 応募の締切

2025 年 7 月 25 日、「はぐくむ」コースの申請書の受付を締め切り、123 の大学及び研究機関より 697 件の応募を得た。また 2025 年 8 月 5 日、「たかめる」コースの申請書の受付を締め切り、88 の大学及び研究機関より 225 件の応募を得た。これらの応募分について、各委員による予備選考を行った。

③ 稲盛研究助成選考委員会による選考

2025 年 12 月 5 日、稲盛研究助成選考委員会 人社系分科会を開催した。次に 12 月 6 日、同選考委員会 理工系分科会を開催した。最後に 12 月 7 日、同選考委員会 生物系分科会を開催した。これらの分科会において「はぐくむ」コース 50 件・「たかめる」コース 10 件の助成対象者の選考を行った。

④ 稲盛研究助成対象者の決定と発表

2026 年 3 月 6 日、定時理事会において 2026 年度稲盛研究助成対象者並びに助成金額を決定し、プレス発表を行った。

※ 附属明細書2「2026年度研究助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目」を参照

⑤ 稲盛研究助成選考委員の公表

助成対象者の発表に併せて、2026 年度稲盛研究助成選考委員を次のとおり公表した。

[2026 年度稲盛研究助成選考委員]

巖佐 庸 (委員長) 九州大学 名誉教授

[理工系]

上田 正仁 東京大学 大学院理学系研究科 教授
片岡 一則 (公財)川崎市産業振興財団 副理事長
東京大学 名誉教授
君塚 信夫 九州大学 名誉教授
佐々木 節 東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構
特任教授
坪井 俊 東京大学 名誉教授
野田 進 京都大学 高等研究院 副院長・特別教授
安浦 寛人 国立情報学研究所 副所長
山田 容子 京都大学 化学研究所 教授

[生物系]

審良 静男 大阪大学 ワクチン開発拠点
先端モダリティ・ドラッグデリバリーシステム研究センター
拠点長
奥野 恭史 京都大学 大学院医学研究科 教授
影山 龍一郎 理化学研究所 生命機能科学研究センター センター長
経塚 淳子 東北大学 大学院生命科学研究科 国際卓越教授
西田 栄介 理化学研究所 領域総括
本橋 ほづみ 東北大学 大学院医学系研究科 教授
柳田 素子 京都大学 大学院医学研究科 教授

[人社系]

井野瀬 久美恵 人間文化研究機構 監事
玄田 有史 東京大学 社会科学研究所 教授
河野 哲也 立教大学 文学部 教授
山室 信一 京都大学 名誉教授
渡辺 千原 立命館大学 法学部 教授

(肩書は 2026 年 3 月 1 日現在)

(3) 2027 年度稲盛研究助成に関する事項

稲盛研究助成選考委員の決定

2026 年 3 月 6 日、定時理事会において 2027 年度稲盛研究助成選考委員を選任した。

2. 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップ

(1) 2025年度稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① 2025年度 InaRIS フェロー授与式の開催

2025年4月26日、ホテルオークラ京都において2025年度 InaRIS フェロー授与式を開催し、2025年3月7日の定時理事会において承認された2名に対して、認定書を贈呈するとともに、InaRIS フェローの称号を授与した。

② InaRIS フェローに対する助成金の贈呈

2025年度に活動する12名の InaRIS フェローに対し、各1,000万円、総額1億2000万円の助成金贈呈を行った。(各 InaRIS フェローに対する助成金は、1年あたり1,000万円、10年間合計1億円とする。)

③ InaRIS 運営委員会の開催

2025年3月7日の定時理事会において承認された2025年度 InaRIS 運営委員により、2025年10月16日及び2026年1月22日、InaRIS 運営委員会を開催した。

[2025年度 InaRIS 運営委員]

中西 重忠 (機構長) 京都大学 名誉教授

岡田 清孝 京都大学 名誉教授

小林 誠 高エネルギー加速器研究機構 特別名誉教授

榊 裕之 奈良国立大学機構 理事長

西尾 章治郎 大阪大学 総長

森脇 淳 中部大学 人間力創成教育院 教授

山中 伸弥 京都大学 iPS 細胞研究所 名誉所長・教授

(肩書は2025年3月1日現在)

④ 2025年度中間審査会の開催

2025年10月16日、2025年度中間審査会を開催し、助成開始から3年目の InaRIS フェローより3年間の研究成果と今後3年間の研究計画、6年目の InaRIS フェローより3年間の研究成果と今後4年間の研究計画の報告を受けた。

⑤ アドバイザリー・ボード・ミーティングの開催

2025年10月16日及び17日、2025年度アドバイザリー・ボード・ミーティングを開催し、在籍する InaRIS フェローより、1年間の研究成果と今後1年間の研究計画の報告を受けた。

(2) 2026年度稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① 応募受付の開始

2025年5月20日、対象領域を「非平衡科学の展開」とする2026年度InaRISフェローシップの申請書の受付を開始した。

② 応募の締切

2025年7月31日をもって申請書の受付を締め切り、17の大学及び研究機関より35件の応募を得た。

③ InaRISフェロー選考委員会による選考

2025年11月24日及び12月21日、InaRIS選考委員会を開催し、InaRISフェロー候補者の選考を行った。

④ InaRISフェローの決定

2026年3月6日、定時理事会において2026年度InaRISフェローを決定し、3月13日にプレス発表を行った。

※ 附属明細書3「2026年度研究助成事業 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェロー」を参照

⑤ InaRISフェロー選考委員の公表

InaRISフェローの発表に併せて、2026年度InaRISフェロー選考委員を次のとおり公表した。

[2026年度InaRISフェロー選考委員]

佐々 真一 (委員長) 京都大学 大学院理学研究科 研究科長

金子 邦彦 コペンハーゲン大学 ニールス・ボーア研究所 教授

川上 則雄 理化学研究所

最先端研究プラットフォーム連携(TRIP)事業本部

基礎量子科学研究プログラム 副プログラムディレクター

佐野 雅己 東京大学 名誉教授

高安 美佐子 東京科学大学 情報理工学院 教授

(肩書は2026年3月1日現在)

⑥ 運営委員の決定

2026年3月6日、定時理事会において2026年度InaRIS運営委員を選任した。

(3) 2027年度稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① 対象領域の決定

2026年1月22日、運営委員会において2027年度InaRIS対象領域を「つながりの生物学」と決定した。

② InaRIS フェロー選考委員の決定

2026年3月6日、定時理事会において2027年度 InaRIS フェロー選考委員を選任した。

Ⅲ. 社会啓発事業

1. こどものキヅキ応援プロジェクトの推進

「こどもたちが不思議を見つけて、自ら深め、連鎖的に増やすことを応援する」をコンセプトに、こどもたちのキヅキを促し、受け止め、答えを出す場ではなく自分で調べてみようと思うきっかけとなる場を提供した。

(1) こども科学博

2025年8月1日、2日及び3日の3日間、京都市勧業館（みやこめッセ）において、小学生向け科学の祭典「こども科学博 2025」を開催し、「体感するからだ」をテーマに、身近な存在でありながら、実は知らないことだらけの“自分のからだ”について、精密機械のように緻密な臓器の仕組みから、五感の働きまで、科学の視点で不思議を発見する機会を提供した。3日間で約6,200名が来場し、約6,300個のキヅキが集まった。

(2) キヅキランド

身のまわりの不思議を見つけるウェブサイト「キヅキランド」の年間を通じた運用を継続するとともに、その仕組みをイベントづくりのプラットフォームとして教育関係者に提供する「キヅキランドメーカー」の利用促進を行った。また、2025年度の新たな試みとして、東京で開催された科学の祭典「サイエンスアゴラ 2025」に出展し、道具/機械の仕組みをテーマにした対面型のワークショップをキヅキランドメーカーの活用例として開催した。この出展・開催を通じ、全国から集まったサイエンスコミュニケーターや教育関係者に、キヅキランドを広く紹介した。

(3) その他

2026年1月25日、つくるまなぶ京都町家科学館の協力を得て、ワークショップ「『光ファイバー』で星座をつくろう！——星の光を“分けて”調べる宇宙の謎」を京都市青少年科学センターにて開催した。

2. 「INAMORI ミュージック・デイ 2025」の開催

京都市交響楽団や招聘アーティストと協力して、文化芸術振興を目的としたプログラム「INAMORI ミュージック・デイ」を開催した。毎年11月3日「文化の日」に、京都市交響楽団と招聘アーティストによるコンサートを開催するとともに

に、ミニコンサートやスクールコンサート等の音楽イベントを同時期に企画し、より多くの方々が音楽と出会う機会を創出した。

(1) シンフォニックコンサート

2025年11月3日、世界で活躍する音楽家の出口大地(指揮)、牛田智大(ピアノ)を招聘し、京都コンサートホールにおいて、京都市交響楽団との共演コンサートを開催した。来場者数は約1,600名、そのうち中高生を対象に約300名を無料招待した。

(2) ミニコンサート

2025年8月24日、9月4日及び10月12日、京都市京セラ美術館において、京都市交響楽団のメンバーによるミニコンサートを開催した。

(3) スクールコンサート&レッスン

2025年10月30日、出口大地(指揮)、牛田智大(ピアノ)を招聘し、京都府立南陽高等学校において、附属中学校を含む全校生徒を対象にスクールコンサートを開催するとともに、吹奏楽部に対しレッスンを実施した。

3. 「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」の支援及び寄附

2026年2月15日、京都大学との共催により「第12回 京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」を「AIは〇〇できるようになるか」をテーマに開催し、本テーマを専門とする京都大学及び東京大学の研究者らによる講演やパネルディスカッションを通して、一般の方々が最先端あるいは注目を集める研究に触れる機会を提供した。なお、2025年度の寄附として、2025年4月、2,000万円の寄附を実施した。

(2022年3月に締結した覚書に基づき、2022年度から2025年度までの4年間で総額8,000万円を寄附) また、第4期(2026年度から2029年度まで)に向けては、2026年1月、京都大学と覚書を締結した。

4. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動支援

当財団からの寄附金(総額1,100万ドル)で設立されたケースウエスタンリザーブ大学「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動支援として、2025年稲盛倫理賞受賞者に選出されたオスカー・チャコン氏(アリアンサ・アメリカス共同設立者・上級戦略顧問)を讃える祝賀行事や広報活動への協力を行った。

5. ピエール・ブーレーズ生誕100年記念事業への協賛

2025年11月8日、京都コンサートホールにて開催された第25回(2009)京都賞受賞者ピエール・ブーレーズ生誕100年記念事業「ブーレーズへのオマージュ」の趣旨に賛同し、協賛を行った。

6. ヴッパタール舞踊団『Sweet Mambo』京都公演への協賛

2025年11月21日及び22日、ロームシアター京都にて開催された第23回(2007)京都賞受賞者ピナ・バウシュが設立したヴッパタール舞踊団の『Sweet Mambo』京都公演及び関連イベントの趣旨に賛同し、協賛を行った。

IV. その他の活動

1. 会議の開催状況

理事会、評議員会を次のとおり開催し、全ての議案が原案のとおり承認可決された。

(1) 理事会

定時理事会

日 時：2025年5月29日(木)

議 案：2024年度事業報告及び決算報告の件
第40回(2025)京都賞受賞者承認の件
定時評議員会開催の件

報告事項：代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
第38回(2023)京都賞受賞者柳町博士の賞金等取扱いの件
第39回(2024)京都賞海外関連行事の件
公益法人制度改革の件
主要日程の件

臨時理事会(決議の省略の方法による)

日 時：2025年6月13日(金)

議 案：役付役員選任の件
学術諮問委員選任の件
京セラ株式会社第71期定時株主総会議決権行使の件

臨時理事会(決議の省略の方法による)

日 時：2025年10月3日(金)

議 案：第42回(2027)京都賞授賞対象分野の件
第42回(2027)京都賞審査に係る委員選任の件

定時理事会

日 時：2026年3月6日(金)

議 案：2026年度InaRISフェロー並びに助成金額承認の件

2026 年度 InaRIS 運営に係る委員選任の件
 2027 年度 InaRIS フェロー選考に係る委員選任の件
 2026 年度稲盛研究助成対象者並びに助成金額承認の件
 2027 年度稲盛研究助成選考に係る委員選任の件
 2025 年度基本財産繰入れの件
 2026 年度事業計画及び収支予算の件
 報告事項：代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
 こども科学博 2025 の実施報告
 INAMORI ミュージック・デイ 2025 の実施報告
 第 41 回(2026)京都賞推薦状況報告
 主要日程の件

(2) 評議員会

定時評議員会

日 時：2025 年 6 月 13 日（金）

議 案：2024 年度事業報告及び決算報告の件
 理事・監事選任の件
 評議員選任の件

報告事項：代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
 第 38 回(2023)京都賞受賞者柳町博士の賞金等取扱いの件
 第 39 回(2024)京都賞海外関連行事の件
 第 40 回(2025)京都賞受賞者の件
 公益法人制度改革の件
 主要日程の件

2. 委員会等の開催状況

(1) 第 40 回(2025)京都賞顕彰事業の各委員会

開催日	名称	議題
2025. 4. 12	京都賞委員会	各部門候補者審査

(2) 第 41 回(2026)京都賞顕彰事業の各委員会

開催日	名称	議題
2025. 9. 6	京都賞合同会議	審査基本方針等
2025. 11. 22	京都賞先端技術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2025. 11. 23	京都賞基礎科学部門 第1回専門委員会	候補者審査
2025. 11. 29	京都賞思想・芸術部門 第1回専門委員会	候補者審査

2025. 12. 13	京都賞先端技術部門	第2回専門委員会	候補者審査
2025. 12. 14	京都賞基礎科学部門	第2回専門委員会	候補者審査
2025. 12. 20	京都賞思想・芸術部門	第2回専門委員会	候補者審査
2026. 1. 10	京都賞先端技術部門	第3回専門委員会	候補者審査
2026. 1. 11	京都賞基礎科学部門	第3回専門委員会	候補者審査
2026. 1. 12	京都賞思想・芸術部門	第3回専門委員会	候補者審査
2026. 1. 31	京都賞先端技術部門	第4回専門委員会	候補者審査
2026. 2. 1	京都賞基礎科学部門	第4回専門委員会	候補者審査
2026. 2. 7	京都賞思想・芸術部門	第4回専門委員会	候補者審査
2026. 2. 21	京都賞先端技術部門	第1回審査委員会	候補者審査
2026. 2. 22	京都賞基礎科学部門	第1回審査委員会	候補者審査
2026. 2. 28	京都賞思想・芸術部門	第1回審査委員会	候補者審査
2026. 3. 14	京都賞先端技術部門	第2回審査委員会	候補者審査
2026. 3. 15	京都賞基礎科学部門	第2回審査委員会	候補者審査
2026. 3. 20	京都賞思想・芸術部門	第2回審査委員会	候補者審査

(3) 研究助成事業の各委員会

開催日	名称	議題
2025. 10. 16	2025 年度第 1 回 InaRIS 運営委員会	運営に関する事項
2025. 10. 16	2025 年度中間審査会の開催	InaRIS 研究報告
2025. 10. 16	2025 年度アドバイザー・ボード・ミーティング	InaRIS 研究報告
2025. 10. 17	2025 年度アドバイザー・ボード・ミーティング	InaRIS 研究報告
2025. 11. 24	2026 年度 InaRIS フェロー 第 1 回選考委員会	フェロー選考
2025. 12. 5	稲盛研究助成選考委員会 人社系	助成対象者選考
2025. 12. 6	稲盛研究助成選考委員会 理工系	助成対象者選考
2025. 12. 7	稲盛研究助成選考委員会 生物系	助成対象者選考
2025. 12. 21	2026 年度 InaRIS フェロー 第 2 回選考委員会	フェロー選考
2026. 1. 22	2025 年度第 2 回 InaRIS 運営委員会	運営に関する事項

3. 広報活動

(1) 記者発表の実施

実施日	内容	実施場所／配布
2025. 6. 20	第 40 回(2025) 京都賞受賞者発表 記者会見	ホテル日航プリンセス京都

2025. 6. 27	不思議と出会える夏休みの科学の祭典！こども科学博 2025 「体感するからだ」を8月に開催（資料配付）	関係記者クラブ
2025. 7. 29	「INAMORI ミュージック・デイ 2025」 8～11月に京都府内で開催（資料配付）	関係記者クラブ
2025. 9. 26	第40回(2025)京都賞行事概要（資料配付）	関係記者クラブ
2025. 11. 10	第40回(2025)京都賞受賞者共同記者会見	国立京都国際会館
2026. 3. 6	稲盛研究助成、新設コースで対象者60名を発表 —プログラム拡充で独創的な研究活動をより力強く支援— (資料配布)	関係記者クラブ
2026. 3. 13	2026年度稲盛科学研究機構 (InaRIS) フェロー決定 (資料配布)	関係記者クラブ

(2) 刊行物の発行

発行月	内容	発行部数
2025. 10	稲盛財団 NEWS 110号	4,200部
2026. 2	稲盛財団 NEWS 111号	4,200部

(3) 電子媒体による情報発信

以下の電子媒体によって、京都賞や稲盛財団の活動に関連する情報を発信した。

- ・ 稲盛財団ホームページ（日・英）
- ・ 京都賞紹介サイト（日・英）
- ・ Instagram 「京都賞-Kyoto Prize」（日・英）
配信：計25回
- ・ Facebook 「京都賞-Kyoto Prize」（日・英）
配信：計100回（日：68回/英：32回）
- ・ X 「Kyoto Prize」「Inamori News」（日・英）
- ・ note 「キヅキランド通信」
配信：計8回（2025年5月2回、8月2回、10月、11月、
2026年1月、3月）
- ・ メールマガジン 「稲盛財団 Magazine」（日）
配信：計13回（2025年4月、5月、6月2回、7月、8月、
9月、10月、11月、12月、2026年1月、2月、3月）
「Inamori Foundation e-Newsletter」（英）
配信：計9回（2025年4月2回、6月2回、9月、10月、
11月、2026年2月、3月）
「3S Magazine（3S会員専用）」
配信：計4回（2025年6月、10月、2026年1月、3月）

「キヅキランド Magazine」

配信：計5回（2025年5月、8月、10月、2026年1月、3月）

（4）京都市京セラ美術館「京都賞コーナー」の展示運用管理

受賞者の考えや生き方にふれることを目的に、京都市京セラ美術館の東広間に常設展示している「京都賞コーナー」の展示運用管理を継続して行っている。

V. 公益目的事業の実施状況

公益目的事業の実施状況は、Ⅰ. 顕彰事業、Ⅱ. 研究助成事業、Ⅲ. 社会啓発事業に記載しているとおりである。

VI. 運営体制の充実を図るための取組

（1）外部理事・外部監事の選任

2025年度末における外部理事は理事総数16名に対し13名、外部監事は監事総数2名に対し2名となっている。

（2）学術諮問委員の選任

外部有識者を学術諮問委員に選任し、年2回の学術諮問会議を開催している。社会的課題の解決に向けた事項及び事業遂行における学術的な事項に関して、代表理事の諮問に応える仕組みを導入している。

（3）公平性の担保

公益目的事業である「京都賞」顕彰事業及び研究助成事業では、外部有識者を含む専門の委員会における審議を経たうえで、理事会において京都賞受賞者や研究助成対象者を決定している。なお、各委員会において委員に利益相反の可能性がある場合には、当該委員を除いて審議を行っている。

（4）法令順守体制の構築

公益法人の実務及びガバナンスに関する知見を有する税理士法人と顧問契約を締結し、法人運営、会計、税務その他公益法人実務に関する助言を受けるなど、外部専門家を有効に活用している。また、各事業の遂行において、国際法、著作権その他の法的確認事項が発生した場合に備え、当該分野に知見を有する弁護士法人と契約を締結し、定期的又は必要に応じて相談を実施している。さらに、会計処理及び財務報告の適正性を確保し、ガバナンス上のモニタリング機能を強化するため、法令

上の義務はないものの、任意に監査法人による会計監査を受けている。

(5) 事業の効果測定

研究助成事業のうち、10年間助成を行うプログラムにおいては、助成開始後3年目と6年目での直近3年間の研究成果を中間報告書として提出を受けるとともに、中間審査会において、同研究成果と今後の研究計画の報告を受けている。なお、中間報告書並びに助成終了後に提出を受ける最終報告書は、刊行物若しくはその他の方法をもって公表するものとしている。

(6) 利益相反取引の防止

理事が利益相反取引をしようとする場合の規定を設け、その事実を理事会に報告する義務を明確にしている。また、理事会招集通知において議案を具体的に明示し、当該議案に特別な利害関係がないか、常に確認を行っている。

(7) 寄附等外部への支援に関する透明性の確保

寄附等外部への支援に関するガイドラインを定め、寄附決定プロセス及び決定条件、不適格事項等を明確に定め、支援等の透明性の確保を行っている。

(8) 適切な情報公開

法律に基づく情報公開を適切に行うことに加えて、公益目的事業の活動状況について、IV. その他の活動の3. 広報活動に記載のとおり、刊行物の発行だけでなく、ホームページやSNS、メールマガジン等の電子媒体により積極的な情報発信を行い、社会に対して透明性の高い事業運営を行うことに努めている。

(9) ガバナンス強化に向けた自主的・自律的な取組み

適正かつ安定的な財団運営を行うため、コンプライアンス体制の整備を進めるとともに、職員に対する研修会を実施し、職員のコンプライアンス意識の向上を目指している。

2025年度助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目

自然科学系 (40件)

対象者	研究題目
イガ タカヒト 伊賀 隆史 慶應義塾大学 医学部 特任助教	加齢に伴う骨折治癒遅延の原因の解明
イカワ ケイスケ 井川 敬介 名古屋大学 大学院理学研究科 助教	不均一ながん微小環境で引き起こされる細胞間相互作用機構の解明
イシイ ケイコ 石井 慶子 中央大学 理工学部 准教授	廃熱を必要に応じて取り出せる多機能性流体の創生
イシザキ トモタカ 石崎 友崇 名古屋大学 医学部附属病院 病院助教	ヒト脳内電極で脳深部の謎を解く：生理的視床神経活動とてんかんの異常ネットワーク解明
イシバシ ミサキ 石橋 美咲 京都大学 大学院農学研究科 助教	イチゴの概日時計に対する器官別代謝リズムの影響
イチカワ コウヘイ 市川 幸平 早稲田大学 理工学術院 准教授	すばる望遠鏡HSCダークな電波天体からさぐる最遠方超巨大ブラックホールの探査
イチジョウ リョウ 一條 遼 京都大学 医生物学研究所 助教	毛包幹細胞遠隔制御メカニズムの解明
ウチヤマ ハルキ 内山 晴貴 名古屋大学 大学院工学研究科 助教	低電位析出による低次元材料/絶縁膜の界面エンジニアリング
オオマガリ シュン 大曲 駿 東京科学大学 物質理工学院 助教	超解像蛍光顕微鏡法と感温性希土類蛍光ナノビーズを組み合わせた新規ナノ温度計測技術の概念実証
オクイ マナブ 奥井 学 中央大学 理工学部 准教授	人工筋肉駆動打楽器演奏ロボットの開発を通じたヒトの脱力活用メカニズムの解明
カツハラ コウキ 勝原 光希 岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域 助教	送粉者を介した競争関係にある植物の多種共存メカニズム
カラサワ タダヨシ 唐澤 直義 自治医科大学 分子病態治療研究センター 講師	脂質代謝を標的とした順遺伝学による細胞死の制御法の確立
キタヤマ ユキヤ 北山 雄己哉 大阪公立大学 大学院工学研究科 准教授	α リポ酸共重合体微粒子に対する界面光架橋反応を利用したpH応答性・主鎖分解性高分子カプセルの開発
クスモト ソウタロウ 楠本 壮太郎 神奈川大学 化学生命学部 特別助教	有用な溶媒蒸気を汎用的に捕捉可能な高機能吸着材料の開発

自然科学系

対象者	研究題目
コウサイ ショウキ 光斎 翔貴 立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 准教授	乗り換えかレストアか？自動車の資源循環を踏 まえた天然資源消費量の評価
サコダ マサヒト 迫田 将仁 北海道大学 大学院工学研究院 助教	強相関化合物CaRuO ₃ で現れる桁外れなサイズ 効果のメカニズム解明
ササキ ヨウイチ 佐々木 陽一 九州大学 大学院工学研究院 助教	励起子分裂の光エネルギー貯蔵への応用
サナキ ユウヤ 佐奈喜 祐哉 筑波大学 生存ダイナミクス研究センター 助教	腸内細菌と生理学的ストレスがもたらす代謝脆 弱化機構
シラトリ ミホ 白鳥 美穂 順天堂大学 薬学部 准教授	一次求心性神経の遺伝子発現変化から迫る炎症 性皮膚疾患の病態解明
タカスギ マサキ 高杉 征樹 大阪公立大学 大学院医学研究科 講師	適応的な加齢変化とその制御機構の解明
タカノ テツヤ 高野 哲也 九州大学 高等研究院 准教授	高精度プロテオーム解析を用いたストレス応答 神経回路の分子レベルの解明と精神疾患の理解
タカハシ シュン 高橋 駿 京都工芸繊維大学 電気電子工学系 准教授	らせん型半導体フォトニック結晶を用いた電子 スピン制御
タカハシ シンタロウ 高橋 慎太郎 学習院大学 理学部 助教	脱テルル化反応を駆動力とする新規な典型元素 カップリング反応の探索
ナカタ ユウイチロウ 中田 雄一郎 千葉大学 大学院医学研究院 特任助教	メタボリックシンドロームが構築する心不全関 連エピジェネティックメモリーの制御機構の解 明
ナカノ リョウヘイ 中野 亮平 北海道大学 大学院理学研究院 教授	根圏常在細菌が分泌し宿主植物の成長を制御す る生理活性物質の同定
ナカムラ ユウスケ 中村 勇哉 名古屋大学 大学院多元数理科学研究科 准教授	周期グラフの数え上げ組合せ論への代数幾何学 の応用
ヒガシノ トモヒロ 東野 智洋 京都大学 大学院工学研究科 准教授	マックイ結晶実現に向けた三次元周期構造を有 するπ共役分子の開発
ヒラノ アリサ 平野 有沙 筑波大学 医学医療系 助教	体温リズムを制御する神経メカニズムの解明

自然科学系

対象者	研究題目
フクシマ トモヒロ 福島 知宏 北海道大学 大学院理学研究院 講師	振動強結合下での水和イオンの物性制御
フルカワ カナ 古川 可奈 大阪大学 エマージングサイエンスデザインR3センター 特任助教	進化的に保存された気管組織ジャバラ様構造形成メカニズムの解明
ホソノ ノブヒコ 細野 暢彦 東京大学 大学院工学系研究科 准教授	ナノポーラス材料を利用したタンパク質精製およびリフォールディング技術の開発
マキノ シホ 牧野 支保 東京大学 定量生命科学研究所 助教	初期胚発生におけるRNA分解の選択性を生み出す時空間的制御
ミヤウチ エイジ 宮内 栄治 群馬大学 生体調節研究所 准教授	母体炎症による子の1型糖尿病増悪機序の解明
ミヤモト ユウ 宮本 佑 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任助教 (常勤)	肝臓におけるマクロファージを基軸とした生体防御バリアの実態解明
ムネカネ マサユキ 宗兼 将之 金沢大学 医薬保健研究域 助教	放射性ハロゲンで標識した抗体薬物複合体の開発
モリモト サトル 森本 悟 慶應義塾大学 殿町先端研究教育連携スクエア 特任准教授	筋萎縮性側索硬化症における病態回避機構の解明と治療法開発
ヤギタ ユウイチ 八木田 悠一 九州大学 基幹教育院 助教	タンパク質複合体を正しく組み立てる仕組みの解明
ヤマネ ケイスケ 山根 啓輔 豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 准教授	シリコンフォトニクス応用に向けたIII族-V族元素共添加ゲルマニウム発光素子材料の開発
ルジ トリシット ルジ トリシット 岡山大学 惑星物質研究所 准教授	地球外生命探査に向けた火星北極周辺の液体塩水の存否検証と水質推定
ワタナベ タカイチ 渡邊 貴一 岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域 准教授	リサイクル可能なイオン伝導性ビトリマーの開発

人文・社会科学系（10件）

対象者	研究題目
アライ ハルカ 有井 晴香 北海道教育大学 教育学部 准教授	エチオピア村落地域における性的マイノリティによる子育てにみる社会関係
イケハタ フキコ 池端 蒔子 立命館大学 衣笠総合研究機構 准教授	イスラーム的価値をめぐる競合と合意の国際政治：イスラーム協力機構を舞台としたイラン外交の事例から
ウ カイシュン 于 海春 北海道大学 大学院メディア・コミュニケーション研究院 助教	ソーシャルメディアデータを用いた中国のナショナリズムと科学的偽情報の実証分析
ウラタ マユ 浦田 真由 名古屋大学 大学院情報学研究科 准教授	世界遺産白川郷における地域住民および観光客の主観情報収集によるオーバーツーリズム指標の開発
ツナシマ ヒロユキ 綱島 洋之 大阪公立大学 都市科学・防災研究センター 特任講師	園芸療法の現象学—実践者の主観的経験の積極的評価による「障害の社会モデル」の適用
ナリタ リュウイチロウ 成田 龍一朗 秋田大学 教育文化学部 助教	社会の分断に対するエゴイズム論の可能性——ドラ・マースデンを手掛かりに
ハシグチ アキコ 橋口 晶子 筑波大学 医学医療系 助教	研究コミュニティによるピア評価は、新たな学問分野を着想する専門家を見出し育成できるのか
ミズタニ トモヒコ 水谷 智彦 山形大学 地域教育文化学部 講師	戦前期における学校の選抜・配分機能をめぐる考察 —大正期・昭和初期の「個性調査簿」に着目して
ミナリ ジュサク 三成 寿作 京都大学 iPS細胞研究所 特定准教授	ゲノム編集技術の急速な発展に伴うヒト受精卵のあり方に関する倫理的考察
リ ナイキ 李 乃琦 名古屋大学 高等研究院 特任助教	「古代仏教辞典データベース」の構築と公開に向けた基礎的研究

※所属・役職は 2025 年 3 月 7 日現在

2026年度助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目

はぐくむコース 200万円/件

理工系 (21件)

対象者	研究題目
芦田 洋輔 東北大学 大学院理学研究科 助教	多波長でのニュートリノ観測による天文学の新展開
有地 法人 京都大学 大学院薬学研究科 助教	メチオニン残基を標的とするタンパク質の光化学的修飾法
伊形 尚久 学習院大学 理学部 助教	強い屈折極限における光の偏向角の局所幾何学的記述の一般化
上田 健太郎 東京大学 大学院工学系研究科 講師	非従来型超伝導体の探索に向けた極低温技術の開発
大音 隆男 山形大学 大学院理工学研究科 准教授	ハニカム格子内のプラズモニックナノ共振器を用いた高効率赤色発光素子の開拓
大村 拓也 北海道大学 電子科学研究所 助教	球対称遊泳微生物が示す光応答性一方向運動における駆動力制御機構の解明
岡 大地 東京都立大学 大学院理学研究科 准教授	高導電性エピタキシャル界面を活用した深紫外透明導電体の開発
河上 龍郎 東京大学 大学院数理科学研究科 准教授	正標数における微分形式の拡張問題に関する研究
北川 俊作 京都大学 大学院理学研究科 准教授	多重超伝導状態の干渉がもたらす新奇準粒子励起の解明
久世 尚美 和歌山大学 システム工学部 講師	クロスシャード通信効率化のための階層型committeeアーキテクチャ
栗山 怜子 京都大学 大学院工学研究科 准教授	壁面せん断応力計測法の新規開発に向けた蛍光ナノプローブの設計と検証
高田 健司 山形大学 大学院有機材料システム研究科 准教授	糖ユニットを基盤とした次世代エンジニアリングプラスチックの開発
福嶋 誠 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 准教授	脳コネクトームの構造的結合パターンが担う機能の解明

対象者	研究題目
古畑 隆史 東京大学 大学院工学系研究科 助教	転写因子の標的分解を指向した間接的ユビキチン化剤の創出
三上 杏太 京都大学 大学院工学研究科 助教	高温エレクトロニクスの開拓を目指した炭化ケイ素pチャンネルMOSトランジスタの物理モデル構築
宮田 潔志 九州大学 大学院理学研究院 准教授	高速混合と高速分光を用いた新規反応中間体分析法の開拓
向吉 恵 京都大学 大学院理学研究科 助教	連続フロー合成法によるハイエントロピーMOFの創製
武藤 克也 大阪公立大学 大学院理学研究科 講師	スピン相互作用を基軸とする機能性超原子の創成
八木 亜樹子 名古屋大学 大学院理学研究科 教授	新奇孤立 π 電子系の創製と機能開拓
安井 基博 京都工芸繊維大学 分子化学系 助教	未踏ヘテロ環を基盤とする機能性錯体の創出
山崎 遼也 一橋大学 社会科学高等研究院 講師	順序回帰のための単峰性を促進する正則化学習

生物系（19件）

対象者	研究題目
生田 達也 慶應義塾大学 医学部 専任講師（有期）	血管収縮を引き起こすホルモン受容システムの解明
上地 浩之 京都大学 大学院薬学研究科 准教授	細胞内相分離による三細胞結合点の形成機構
小坂田 拓哉 東京科学大学 生命理工学院 特任准教授	社会的ストレスへの適切な応答を導出する回路基盤の同定
蒔田 裕也 東京大学 大学院理学系研究科 助教	単一空隙スケールの時空間解析に基づく微生物による土壌汚染浄化の機序解明
川口 茜 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 助教	両生類再生モデルを用いたクロマチン制御の階層的理解

対象者	研究題目
小西 義延 京都大学 医学部附属病院 特定病院助教	空間免疫解析による骨髄腫Bispecific抗体療法の応答予測と耐性克服法開発
坂口 大起 大阪大学 大学院医学系研究科 助教	潰瘍性大腸炎の粘膜修復を促す上皮幹細胞分化制御薬の開発
澁田 未央 山形大学 理学部 助教	花粉管が伸びる際に精細胞を運ぶ栄養核の働きを解き明かす
志甫谷 涉 慶應義塾大学 医学部 准教授	新規紫外光チャネルロドプシンの構造機能解析と光遺伝学応用
鈴木 理滋 九州大学 大学院医学研究院 助教	新規宿主因子によるB型肝炎ウイルス転写制御機構の包括的解析
田坂 元一 理化学研究所 生命機能科学研究センター 上級研究員	養育行動不全におけるドーパミンシステムの機能障害とその克服
玉木 健太 名古屋大学 大学院理学研究科 助教	光応答性サイボーグ型微小管の創製と動的機能制御
田村 友和 九州大学 大学院医学研究院 准教授	RNAウイルス感染における病態多様性を決定づける翻訳機構の解明
野下 浩司 九州大学 大学院理学研究院 助教	葉脈ネットワークの「かたち」の多様性の解明
松本 拓也 大阪公立大学 大学院工学研究科 准教授	グルコースを燃料とする人工細胞型エネルギー変換システムの構築
松本 直之 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 特任助教	神経回路の再編機構を単一細胞レベルの <i>in vivo</i> イメージングにより解析する
村居 和寿 金沢大学 医薬保健研究域 助教	リパーゼによるウイルスの多段階制御に基づく抗ウイルス戦略の構築
山道 真人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 准教授	環境変動が進化的救助に及ぼす影響：理論と実証
若林 智美 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 助教	ミヤコグサにおける高温による発芽抑制の種内多型と適応進化機構の解明

人社系（10件）

対象者	研究題目
木山 幸輔 筑波大学 人文社会系 助教	アフリカを参照項とした紛争後和解の倫理：ルワンダでの調査、倫理的意味の探究、紛争後表象への範例提示
合田 千晶 関西医科大学 看護学部 助教	看護基礎教育において臨床教員が担う学生への指導の実態と臨床教員が認識する困難
左近 幸村 九州大学 大学院経済学研究院 准教授	近代アジアにおける自由港の比較研究
里村 和歌子 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 准教授	ラオスのポストコロナ期女子教育停滞のメカニズム——語ることとジェンダー
園田 薫 慶應義塾大学 商学部 講師	マイノリティの性質の重なりが雇用・企業に与える影響の実証的研究
高橋 佳代 鹿児島大学 大学院臨床心理学研究科 准教授	AIを活用した医療機関における軽度知的障害者の就労定着支援の開発と効果の検証
田中 伸明 北里大学 一般教育部 講師	ヨーハン・ゴットリーブ・グラウンの音楽史的意義——器楽作品への検証を通じて
廣瀬 航也 宮城教育大学 教育学部 講師	リール市レオン・ド・ロニー文庫を中心としたフランスにおける日本美術関連資料に基づく「日本学」の構想
松本 卓也 信州大学 理学部 助教	物質文化が霊長類の認知・社会性に与えた影響の解明：ニホンザルの温泉入浴に着目して
綿村 英一郎 大阪大学 大学院人間科学研究科 教授	Justice by Two Minds – 認知バイアスの再評価による人間と AI の「共同判断モデル」の構築

※所属・役職は 2026 年 3 月 6 日時点

たかめるコース 1,000万円/件

理工系（4件）

対象者	研究題目
安藤 英紀 徳島大学 大学院医歯薬学研究部 准教授	悪性リンパ腫治療のための膜タンパクに対する革新的抗体創薬研究
音野 瑛俊 九州大学 大学院理学研究院 准教授	衝突型加速器の生成するニュートリノの初観測から3年、さらなる発展への架け橋
北村 恭子 東北大学 大学院工学研究科 教授	単一素子円偏光レーザーの開発
平松 光太郎 九州大学 大学院理学研究院 教授	明滅フリー超局在顕微鏡の開発と応用

生物系（4件）

対象者	研究題目
加藤 一希 東京科学大学 総合研究院 准教授	新規プロテアーゼ型CRISPR-Cas酵素の探索と多様な抗ウイルス防御機構の解明
富樫 庸介 岡山大学 学術研究院医歯薬学域 教授	オルガネラによる多細胞コミュニケーション
中村 修平 奈良県立医科大学 医学部 教授	リソソーム損傷応答の分子機構およびその老化における役割の解明
牧野 浩史 慶應義塾大学 医学部 教授	社会的排除行動における神経機序の解明

人社系（2件）

対象者	研究題目
坂井 禎介 奈良女子大学 研究院生活環境科学系 専任講師	亭（東屋）の通史構築
鈴木 聖子 大阪大学 大学院人文学研究科 准教授	近現代日本の伝統音楽・伝統芸能をめぐる聴覚文化論：仲介者としての音楽研究者・芸能者・講演家の表現

※所属・役職は2026年3月6日時点

2026年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェロー

採択年度	対象領域	InaRIS フェロー	研究テーマ
2020	量子	京都大学 基礎物理学研究所 教授 高柳 匡	量子エンタングルメントから創発する量子重力理論
2020	量子	東京大学 大学院総合文化研究科 准教授 野口 篤史	誤り耐性量子計算のための超高精度量子制御
2021	生命	東京大学 先端科学技術研究センター 教授 西増 弘志	新規 RNA 依存性酵素の探求
2021	生命	北海道大学 低温科学研究所 教授 山口 良文	哺乳類の冬眠能を構成する因子同定とその機能検証
2022	材料	東北大学 電気通信研究所 教授 深見 俊輔	人工制御による物質・材料の「知能」の発現とコンピューティングへの展開
2022	材料	京都大学 高等研究院 准教授 藤田 大士	生物情報起源材料用のマトリックス合成と新機能の創出
2023	情報	九州大学 大学院システム情報科学研究院 教授 亀井 靖高	機械と人のインタラクションによるソフトウェア開発様式の創出
2023	情報	名古屋工業大学 大学院工学研究科 教授 田中 由浩	内的特性に基づく触知覚の原理解明と情報化
2024	医学	東京大学 医科学研究所 教授 鈴木 洋	遺伝子制御情報の時空間進化の理解・予測に基づくがん治療 DX
2024	医学	東京大学 先端科学技術研究センター 教授 星野 歩子	エクソソームが切り拓く疾患生物学
2025	数学	東京大学 カブリ数物連携宇宙研究機構 教授 戸田 幸伸	圏論的 Donaldson-Thomas 理論を通じた新たな研究領域の開拓
2025	数学	京都大学 高等研究院 教授 平岡 裕章	数学からヒト生物学への挑戦
2026	非平衡	理化学研究所 開拓研究所 主任研究員 川口 喬吾	インテリジェントマターの創発原理の解明
2026	非平衡	東京大学 大学院工学系研究科 教授 沙川 貴大	非線形・非平衡トポロジーとその熱力学への応用

以上 14 名

※所属・役職は 2026 年 3 月 1 日現在